

チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



大好評！「障害理解」出前授業



昨年10月にスタートした「障害理解」出前授業。その後、新たに2校で実施しました。

B 小学校 毎年、本校と交流をしている学校（1・2年生を対象に実施）

- ・豆まき集会をやるとき、仲良くしたい。声をかけて元気づけたい。
- ・今度の集会で友達になりたい。
- ・学校にエレベーターがあるのを初めて知ってびっくりした。
- ・優しい目と温かい心の秘密が分かりました。

〈先生方〉

- ・障害という言葉を使うよりも「〇〇〇な友達・タイプ」という紹介がよかった。
- ・言葉が伝わらない時、どうしたらいいのか一緒に考える場の設定がよかった。1年生なりに「絵を描いて見せればいい」「言葉をたくさん並べて選んでもらうといいよね」などと話していた。
- ・まとめて話した「優しい目」「温かい心」がキーワードとして、子どもたちの心に強く残った。教室に戻ってから、自分たちの生活を振り返り、「もっと友達と仲良くしたい」「困っている友達を助けてあげたい」という感想が聞かれ、うれしく思った。

〈豆まき交流会の様子〉

- ・これまでよりも積極的にみどり学園の子どもたちに声をかけたり、手をつないだりする様子が見られた。（来年度は、他学年にも出前授業をしてほしいと依頼があった）

C 小学校 居住地校交流を行っている学校（1年～3年生を対象に実施）

- ・小学生だけでなく、中学生や高校生もいるのにびっくりした。
- ・エレベーターやスロープがあったり、写真やイラストを使って話したりして、いろいろ工夫していることが分かった。
- ・今日、一番大切だと思ったのは、みんなと心を合わせること。心を合わせることによってできないこともちょっとは簡単になると思った。
- ・友達をつくるためには、優しい目と温かい心が大切だと分かった。

〈先生方〉

- ・授業後、食堂の片付け、給食、清掃など、子どもたちがいつもよりも自主的に声をかけあって動いていた。今日の学習が心に響き、実践しようとする気持ちにつながった。
- ・みどり学園の話だったが、体験や友達の作り方のポイントなど、学校生活の中でも活かせる内容が多く、それが身近な人でも困っている人いるかもしれないという気付きにつながると思った。

〈居住地校交流をしている本校児童のお母さんの感想〉

- ・本校児童のお姉さんが出前授業に参加しており、家に帰ってから「みどり学園の先生が小学校に来て勉強を教えてくださいましたよ！」と、うれしそうにお母さんに伝えたそうです。お母さんは、「とてもありがたい活動であり、居住地交流をやってよかった。」と担任に話していたそうです。 ※来週はC小学校の高学年を対象に行います。